

令和6年度 第10回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和7年2月14日（金）午後6時30分から午後8時
- 2 開催場所 伊東市役所 7階 特別会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員7人（2人欠席）
市長、中村副市長、岸副市長、教育長、企画部長
事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

4 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 市長挨拶
- (3) 意見交換
- (4) 閉 会

5 意見交換概要

- (1) 企画課長より開会
- (2) 市長挨拶

【市長】

皆様こんばんは、令和6年度第10回目の会議に当たりまして、一言申し上げます。

1月に引き続き未来ビジョン会議を開催させていただきました。

先月のプレゼンテーションでは、素晴らしい御提案をいただきましてありがとうございました。本日は、委員の皆様一人一人としっかりと意見交換を行いまして、より実りのある会議としたいと思います。2つのグループに分けさせていただきました、昨日も行いました。本日のテーマですが、プレゼンテーションのテーマでもありました「理想の将来像実現のための手法や提案」ということになります。プレゼンテーションの内容や、ワークショップでの御意見等を踏まえ、皆様と意見交換ができればと思います。

このまちの未来を変える。変えられるのは私たちであり、一人一人がこういう伊東市をつくりたいという意味を込めて、未来を描けば、本市の未来をより良く変えることができると思いますので、皆様と一丸となって、夢と希望を形にできる将来像の実現に向かっていきたいと考えております。ぜひ、本日も、忌憚のない御意見をお願いします。

(3) 意見交換

【課長】

それでは、さっそく意見交換に入ります。小野市長、お願いいたします。

【市長】

それでは、意見交換に移ります。「理想の将来像実現のための手法や提案」という視点でワークショップやプレゼンテーションをしていただきましたが、プレゼンテーションでは伝えきれなかったこと、あるいは全く別の観点から皆様とざくばらんに意見交換をし

たいと思います。それでは、最初にK委員、お願いいたします。

【K委員】

皆様こんばんは。本日はよろしくをお願いいたします。約1年間、未来ビジョン会議に携わらせていただきまして、私自身、学びになったことと、いろいろな方の御意見を集約する過程で、様々なことが見えてきて、今後の伊東市に対するワクワク感というのはどんどん上がってきたなというところがございます。我々のプレゼンテーションで、高校生たちのビジョンが観光の分野に触れることもあり、話が飛躍した感じもありましたが、ちょっと補足をさせていただきたいなと思っております。

まず、私も子どもがおりますので、私の認識としては学校の教育っていうのがメインになっております。より効率的に、その子たちの性格に落とし込んでいくためには家庭教育と、また、いろいろな体験をする地域教育っていう、この三位一体の教育の場っていうのが必要だなと思っております。

私がこの会議に出席した背景としまして、市PTA連合、その中でも家庭教育委員会という役職ですので、その意見も盛り込ませていただきました。また、同じCグループの現役高校生である彼女たちは、どちらかというと地域教育に自分たちが積極的に出ていきたいという、もっと地域の人と交流をしていろいろなものを巻き込んでいって、自分たちの教育をさらに充実させていきたい、教育期間中に伊東市に在ることを充実させていきたいという思いがあり、伊東市は観光立市でございますので、自分たちが何かを提案してできたものが、後々にそれが影響して、市の観光が良くなっていくっていうビジョンを持って提案いたしました。

地域教育は、自治会とか自分の住んでいるところとの関わり合い、あるいは地域にある企業との関わり合いでありまして、今、少子化ということで、地域の祭りでも何でも、人手不足、特に若い人たちが出てこないっていうことが問題でございます。自治会と関わり、そういったところに子どもたちが自ら何かやりたいっていうことを思い、その地域の人と一緒に交流することで、見識や経験を広げて、何か新しいことができる。また、地域の伝統とか文化を継承していく。そういった担い手になれたらと思っております。歴史文化というのは、学校で勉強する時間もあります、机の上でやるとどうしても理解がしにくいところもあると思いますので、地域の一つの交流を通じ、子どもたちが学んでいくものかなと思っております。

また、多くの企業が伊東市にはございまして、いろいろな種類の企業がございまして。現在、高校生たちは自分で興味ある企業を調べて、そことコンタクトを取るっていうところまではできているようです。さらにそこから一歩進み、研修に行ったり、体験をしたり、またフィードバックをするという、そういったところまでが本来やりたいということを言っておりますので、そういった機会の創出、学校のカリキュラムも飽和していると思いますが、そこを市の主導で地域の企業とのつながりっていうのを後押ししていくような形で進めていただけると、やりやすいのかなと思っております。

家庭教育については、市PTA連合の家庭教育委員会の中で、アンケートを実施しました。「どういった家庭教育についてご興味がありますか。」というような内容だったのですが、その中で多かったのがレジリエンス教育、いわゆるWell being、自分の幸福を求めるために、問題解決をしていく子どもたちを、育てていきたい。そういった教育を家庭教育でしたいし、学校教育でもそれを後押ししてほしいということでした。

あとコミュニティスクール、これは本当に地域との関わり合いだと思いますけれども、コミュニティスクールをもっと充実させてもらいたいっていう意見もありました、あとはマネースクールについては、市PTA連合が企画をして、講師を呼んで子どもたちと親とで参加し3回実施しました。盛大に行われましたので、一つは達成できましたが、レジリエンス教育とコミュニティスクールは、1時間とか2時間の単発ではなかなか学べないもので、地域性とか市の教育の方針であるとか、そういったところから、地域を巻き込んでのことになると思いますので、行政の方にも後押しをしていただきたいと思います。以上です。

【市長】

K委員が申しますとおり、まずはですね、学校教育をしっかりしなくてはいけないっていうことはよく承知しております。また、地域との関係は高校生が強く思っているのは非常に嬉しいことで、自分が生まれ育ったところですね、関わりを持って行って、今お話があったように歴史や文化は肌で感じていくものだと思いますので、いろいろな経験をする中で、伊東に対する愛情が生まれるのではないかと感じました。

【岸副市長】

御意見ありがとうございました。私は去年からこの会議に出ておりますが、K委員が高校生の意見をすごく尊重し内容をしっかりまとめていただき、実は昨日Cグループの2人が来てくださったときの意見も、ものすごくしっかりした意見を言っていたので、K委員が意見の発表の仕方を教えるなど、そういうような支援をしていただいたというのを強く感じました。未来ビジョン会議は単なる意見を言うだけではなくて、狙いとして私は高校生が社会人に対してマナーを持って自分の意見を言えるようにするっていうのも、一つの大人になる階段として必要なところだと思っていましたので、さすが家庭教育を勉強されているようなので、昨日の高校生2人の発表を見てほしかったです。とても感銘を受けました。1年間で2人を育ててくださったと思いました、ありがとうございました。

【教育長】

日頃から市PTA連合の皆様には、学校の支援をしていただきまして本当に感謝をしております。今お話がありましたけれども、家庭教育、地域の教育、それから学校教育と、この三つがそれぞれの立場で充実していくことが、本市全体を上げること、これも間違いないと思いますので、そういった視点を今改めて言っていました。岸副市長のお話にもありましたが、若い方を盛り上げていきたいっていう気持ちがとても伝わりまして、伊豆伊東高校と市教育委員会との連携を強くしておりますので、そういった意味でお話していた

いたような、文化のこととか、連携しながらこれからも進めていきたいなということを強く思いました。それから、コミュニティスクールですとか、レジリエンス教育の話が出ましたけれども、コミュニティスクールについては、市教育委員会として全校に広げていきたいと強く思っております。今、学校統合についての話がありますので、今後はそれを含めて、全体的に広げていきたいと思っております。

レジリエンス教育については、非常に重要な分野でありまして、今の学校の養護教員、保健室の先生を中心として、特に門野中学校で研究を進めており、全校に広がっていますので、伊東市は県内でこの教育について、レベルが高い状況だと思います。門野中が深く研究しておりますので、また機会がありましたら、門野中の研究内容を御認識いただけたらと思います。今後とも、御指導よろしくお願ひしたいと思ひます。様々な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

【市長】

K委員、他に御意見はございますか。

【K委員】

学校のカリキュラムに対して意見していくというのは難しく、行政としては環境を整える方がメインになるとは思いますが、市の教育理念、自助の精神を養う教育であるとか、そういった子どもたちの性格とか、心の発達のところ市がもっと色を出していくことは可能でしょうか。

【教育長】

教育行政の基本方針、また、市長部局と連携して、教育大綱におきまして、その中にいろいろな文言を落とし込んで、時代に合ったものを作っております。新たな教育行政の基本方針を4月に作成しまして、今お話がありました心の発達ですとか、盛り込んである部分があります。伊東の場合は、「知育徳育体育」ということで、要するに知識だけではなくて心を大切にしていこうと、どの学校もやっておりますので、御理解をしていただき、何かあればまたお話をいただければ、できることはやっていきたいなと思っております。ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。それでは、H委員、お願いいたします。

【H委員】

Hです、よろしくお願いいたします。私は、Aグループにおいて都市や危機管理をテーマとしておりましたが、三島信用金庫で営業をやっておりますので、地域のお客様の声を基に観光寄りの意見を言わせてもらいます。商店街を回らせてもらう際に、よく聞く声として、湯の花通りまでは観光客が歩いているが、キネマ通りだと人がいなくなるということです。

あるお客様から解決策として提案されたのが、もう少し藤の広場を観光客向きに活用したらどうかということでした。藤の広場が賑わうことで、導線上のキネマ通りも人通りが多くなるという話を聞きました。また、駅前でも、お土産を買えるところが少ない、もう少し

伊東のお土産を買えるところがほしいと言われました。極端な話ですが、藤の広場に大きなお土産屋が建てば、そこまで歩いて買いに来て、導線上も活性化するという意見もありました。

あと、伊東市は温泉の湧出量が全国でも上位ですが、私も知らなく、認知度が低いと思われます。そのPRに力を入れていけば、もっと観光客を呼び込めるのではないかと思います。駅前開発も進んでいくと思いますが、やるのであれば大々的にやった方がいいという意見が多かったです。図書館についても同様、地域の人にも納得してもらえるように作っていただきたいと思いました。以上です。

【市長】

ありがとうございました。一番お客様と接するのではないかなと思いますので、まさに生の声をいろいろと届けていただいたと思います。お話にありましたように、湯の花通りまでは通りが狭いこともあって、とても混雑して見えるという特徴がありますが、キネマ通りはちょっと広がっておりますことから、閑散として見えるのが現状です。藤の広場につきましては、「I TO MARCHE」を開催しておりましたが、委託先でトラブルがありまして、4月以降また新しい形で考えていきます。また、御社からお借りしている駅前の跡地もこれから活用させていただきたいと思います。いろいろお話があったように大規模なものも、駅前広場の開発に合わせて、今ちょうど空いている元東海自動車の車庫だったところも、マンションディベロッパーとか、旅館ホテルの誘致などに向けて進んでおりますので、新しい拠点にはなっていくのではないかと思います。

湧出量については、駅前広場を整備するときに、足湯だけでもやったらどうかとか、湯の花通りにはお手湯もありまして、いろいろとアピールをしていけばいい方向に向かうと思っております。新しい図書館については、一昨年に入札が不調でしたので、再設計をいたしまして、再入札を今年行います。少しダウンサイジングしましたがけれども、必ず着工できると思います。約3年後に完成いたします。ぜひ楽しみにしていただければと思います。

【中村副市長】

御意見ありがとうございました。街中が寂しいということ、御指摘の通りでございまして、何とかしなくてはと、本市としても一番重要な課題であると捉えております。藤の広場を活用して回遊性を高めるという、まさにその通りであります。逆に言うと、1月終わりにめちゃくちゃ市というイベントを土日で実施しまして、今年は天気も良くてお客さんがたくさん来られました。それを見ていたある方より、人は駅と藤の広場とで流れているが、結局商店は何もやっていないねという御指摘をいただきました。そういったイベントがあれば、出店しましょうとか何か売りましょうという動きがあってもいいのにねって御指摘もいただきまして、それもあるほどと思いました。月1回とか年何回かというイベントだけだと、なかなか商店街の方もそういう動きにならないのですが、藤の広場が絶えず人が集まるようなものが、毎日でなくても毎週何か賑やかなものがあるということが定着してくれば、通りの方々も動いていただけるかと思っておりますので、御指摘の通り藤の広場の活用につ

いては、本当に踏み込んだ検討が必要なのかなと思っております。

あと湯量の話で、PRがうまくできればという御意見です。それも本市がいつも指摘されている弱点でございまして、PRが下手だということを御指摘されます。特に隣の熱海市がうまくやっているっていう御指摘をされますけれども、これからもSNSを活用し、いろいろ面でのPRはぜひ力を入れてやっていきたいというふうに思っておりして、あと今年の10月から宿泊客からいただく入湯税を、これまでの150円を300円に値上げをさせていただいて、財源も生まれますので、そういった財源をうまく使いながらPRを十分にやっていきたいと思っております。御意見、本当にありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。それでは、O委員、お願いいたします。

【O委員】

東海自動車から参りましたOと申します。私のチームでは、都市とか危機管理をテーマに議論させていただきました。議論を深める中で、伊東市の良いところについて気づかされました。空き家とか、交通の問題とか、いろいろな課題があるにせよ、前向きに取り組んでいくことがいいところであると思いました。未来ビジョン会議が開催されていることも、いい取組であると思いました。H委員と重複するところもありますが、私自身、伊東市の良いところをもっとPRしていく必要があると思います。住む人にも、訪れる人にも良いところにしていかなくてはならないと思いました。私は、横浜市出身なので、観光客として伊東市に来て、今は伊東市に住み東海自動車に転職して25年程となりました。観光客として訪れた際に感じたことは、そんなに不便ではないよね、ということです。ほどよく住みやすい、子育てしやすいという印象を受けました。

私は東海バスにて広報と採用を担当しております。採用に関しては、首都圏のイベントにて、伊豆に移り住んで東海バスに就職するように推奨しております。正直、首都圏の方は伊東市に移り住むことに不安を覚えられる方もいらっしゃると思いますので、私が移り住んだときの経験談を話しまして、そんなに不便ではないよ、まあまあ便利で生活しやすいし、自然もあるよという話をします。今後、東海バスは運転手不足による減便等で市民の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、移住したい方を増やしていかなくてはならないと思っております。そのためには、今の伊東市の取組を対外的に発信し、もっとPRしていく必要があると思います。我々は我々でもっとPRしていきます。今後も引き続きよろしく願いいたします。以上です。

【市長】

ありがとうございます。二十数年前から本市に移り住んでいるということでございますが、私も長く伊東市に住んでおりますと、伊東市の良さについて聞かれたときに何を答えた方がいいか迷うことがあります。その際、観光客に何うと、自然もあって不便でもないし、観光ではアクティビティーなものもあれば、博物館もある。様々な世代が楽しめると思います。いろいろな分野があるというのが長所かなと思っておりまして、熱海市がよく話題に上

がりますが、お客様の数はそこまで変わらないです。日帰り客の観光交流数につきましては、圧倒的に本市が上回っております。したがって、本市の長所をもってPRしていく必要があると思いましたので、本会議をやっていることも含めて、もっと発信していきたいと感じました。

移住政策はかなり力を入れておりまして、コロナ禍もありましたので、働いている世代が移住されました。現場で採用を担当されているということで、移住に向けたいいアイデアがありましたら、今後とも御意見いただければ幸いです。

【西川部長】

ありがとうございました。もっと伊東の良いところをPRするべきだということについては、ごもっともであると思いました。中村副市長もおっしゃったとおり、うまく情報が皆様に伝わっていないというところがございます。その辺は、より分かりやすく、広く皆様に発信していきたいと思っております。住む人も訪れる人も、良いところであるということが伝わるようにし、私たち住んでいる人が、伊東市には良いところを発見するということもあるので、そこも含めて伊東市のPRを積極的に行っていきたいと思います。

それから、移住者を増やしていくということで、制度の周知がうまくできていないということもありますので、首都圏だけでなく、圏外の方も移住していただけるように発信していきたいと思います。ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。それでは、M委員、お願いいたします。

【M委員】

私は、前回の会議でも申し上げたとおり、公共交通機関のことがありまして、高校生の移動手段はバスが多いのですが、その理由としてタクシーがとても高く、遊びに行く際にもバスを多用するため、バスが足りないと感じております。もう少しタクシーに関する理解をもってもいいのかと思いました。

また、フォトスポットについて話しますと、伊豆伊東高校の美術部で、伊東駅前の三島信用金庫跡地の壁画を描かせていただきました。1日目は市場も開催しており、描いているところを生で見られるということで、多くの方が来られましたが、2日目になると人が全くいなくて一時的な人気になってしまったのかなという印象でした。何かもう少し、人気が出るような取組が必要だと思いました。以上です。

【市長】

ありがとうございました。公共交通につきましては、バスの運転手確保に苦戦しておりまして、例えば、2種免許を取得する際に会社として支援し、手立ては打っておりますが、それでも不足しております。あと、伊東小学校でスクールバスを導入しており、運転手が必要となりますので、路線バスが減便となっております。一方で、タクシーは少しずつ値上がりしたり、1メートル当たりの距離が短くなったりしておりますが、割り勘にすると、1人当たりの負担が大きくないときもありまして、一定の距離までだったら、タクシーも3人4人

で割ると負担が少ないときもあります。高いという感覚をどうやって理解していただくかということが課題であります。ありがとうございました。

あと、三島信用金庫跡地の壁面について、2日目はギャラリーが少なかったということですが、工夫が必要であると認識しております。今回はPRしていなかったこともあり、通った方がご覧になったのかと思います。

【岸副市長】

発表ありがとうございました。高校生らしい視点の御意見だったかと思います。私もM委員がおっしゃるように1日目に見に行き、それ以降は、完成してからどんな方がベンチに座っているのかなど、見に行きました。いろいろなイベントを仕掛けていくことで、SNSに取り上げられていく戦略がいいと思っており、特に女性による発信でいい噂を広げていくことは、大きなお金をかけなくても、テレビ会社にPRしていただかなくても、効果があるものと思っております。面白い仕掛けがありましたら、伊豆伊東高校としても提案していただけたらと思います。楽しい提案でありました、ありがとうございました。

【市長】

ありがとうございました。それでは、A委員、お願いいたします。

【A委員】

私から提案させていただきたい意見が2つあります。

一つ目は、今、高校でみらい学という探究活動を授業の一環で行っていて、健康とか観光とか教育とかテーマに分かれて伊東をより良くするためにどうしたらいいのだろうっていうのを考えています。今回1年間やったのですが、現状を調べて、実際にフィールドワークで子ども食堂に行ったりとか、伊豆介護センターさんに行ったりとかして、その少し前に発表会みたいな感じでやりましたが、どの班も高校生目線からの提案がたくさんありまして、それを見たときに市役所の方からアドバイスをいただいたりしたら、もっと現実的に考えることができ、より良い探究活動になったのではないかと思います。

二つ目は、伊東の観光地を回り、伊東の魅力を知る授業を作って、そのまとめを高校生とか中学生が、紙に書くのではなくて、SNSで動画を作り、その中から選んで伊東市の公式アカウントで紹介していただければ、企画として一つできると思うし、Bグループの話し合いの中で、その伊東市民が伊東の魅力をまだよくわかってないっていうのが、少し改善できるのではないかなと思いました。以上です。

【市長】

ありがとうございました。とてもいいことを言っていただきました、感心しました。探究活動については、伊東の中のことを知ったり、愛着を持ったりすることに役立っているものと思います。その途中で、市職員が出向き、アドバイスをすることは可能であると思います。

観光地を巡って、成果発表を動画で、という御意見でしたが、とてもいい提案だと思います。YouTubeがメインになるかと思いますが、視覚でPRしていくということが重要であると思います。伊東市民だけでなく、これから伊東に来ようとしている方の目にも止まるか

と思います。何より、高校生が取り組むということが素晴らしいですし、全国ニュースになるくらいの取組になろうかと思います。前向きに実施したいと感じました。

【教育長】

ありがとうございました。探究活動については、伊豆伊東高校が力を入れていると強く感じており、子ども食堂を工夫して実施していたり、農業とスポーツを結び付けたような研究をしたりと、新しい若い人の視点で伊東の様々なところに目を向けていらっしゃると感じました。そういった中で、我々が協力できることをしていきます、私も高校に出向き、常に高校生と会話をしたいと思っています。引き続き、探究活動を進めていただければと思います。自信持ってやっていただけたらと思います。ありがとうございます。

【市長】

ありがとうございました。それでは、〇委員、お願いいたします。

【〇委員】

よろしくお願いします。若者のサードプレイス整備検討に関する提案書というものを机上に配付させていただいております。まずこちらの概要を読み上げさせていただきます。令和7年2月14日、伊東市長小野達也様、伊東市未来ビジョン会議委員〇、伊東市未来ビジョン会議委員〇、伊東市未来ビジョン会議委員T、若者のサードプレイス整備検討に関する提案書、市長におかれましては、伊東市未来ビジョン会議において格別の御配慮を感謝いたします。さて先日、会議にて2つのグループから高校生の居場所、活動場所となるコミュニティカフェに関する発表がありました。現在、伊東市では、高校生や20代の若者たちの遊ぶ場所や交流空間の場所の活用手段が少なく、市外へそれらを求める状態となっております。若者の居場所がない中では、短期的には地域マネーの市外への流出を促進し、中長期的には伊東には何もないという認識に変わり、未来ビジョン会議でも話題になったシビックプライドの醸成が難しくなっていくと考えます。そこでショッピングモールやシネコン等の商業施設の誘致は難しくても、コミュニティカフェを含めた若者の居場所の整備検討を次年度より開始し、若者が愛着を持った居場所となり得る交流、地域参画の場の整備に大きく力を入れていただきたいと存じます。下記の通り要望いたしますので、ソーシャルキャピタル醸成によって若者が伊東にいたいと思える環境づくりのため、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。以下に具体策が書いてありますが、時間が限られておりますので、そちらの方は省略させていただきます。

コミュニティカフェについては、後ほど〇委員から詳しくあろうかと思いますが、私からも視察に関する資料、福島県白河市のエマノンというコミュニティカフェの決算書を配布しております。また、その視察に関する資料も配布しておりますので、後ほどご参考にいただけたら幸いです。

我々としてはいきなりハードを整備しろというわけではありませんで、探求活動の面からソーシャルキャピタル（社会関係資本）を醸成しつつ、中高生や進学で一度伊東を出た大学生などに集まってもらい、先進事例を学びながら、居場所としてどんなサードプレイスが

ほしいのか、その機能を新図書館に備えるものなのか、古い建物のリノベーションなど、把握検討するためのワークショップを開催し、伊東市の方々、市長とか教育長であつたらなおさらいいのですが、中高生とか一度大学進学で伊東を出た若者たちがコミュニケーションを取る場を創設することなどから検討を始めてはいかがかなと思っている次第です。

さて、先ほど触れたソーシャルキャピタル、社会関係資本の概念の提唱者というロバート・パットナムっていう方ですが、ロバート・パットナムが参考になっているのが、19世紀フランスの政治家のアレクシス・ド・トクヴィルという人です。トクヴィルは自由や平等が広がることで、個人主義化と個々人の孤立が深まって、それによって人々はルサンチマン（深い恨みや劣等感、未消化の怨恨や嫉妬を表す心理学的な用語）によって物事を判断するようになり、その嫉妬を共有した多数派が民主主義によって専制君主制以上の独裁を行う、多数派の専制の弊害を防ぐには、国と個人の間にある中間団体が必要となりました。この多数派の専制の例ですけど、わかりやすいのがナチスドイツかと思います。これは労働組合や自治会町内会などが当たりますが、中間団体にいることで個々人は自分の存在意義とか役割を認知して、承認欲求を満たし、コミュニケーションを繰り返すことで他者と連帯しながら自らを律する意味で、自律した個人となることが出来ます。しかし、高齢者が多数派な既存の中間団体では、若者側は参加のための心理的ハードルが高いと感じることも多く、ただそこにいるだけでもいいという若者メインの新時代の中間団体とも言える高校生びいきのコミュニティカフェが私は必要と考えます。また福島県白河市にあるエマノン、高校時代にそこを居場所に使っていた若者が、大学生や社会人になってからも地域交流を行う場所になり、農水官僚だった人が白河にUターンをするきっかけの場所にもなっていることから、関係人口やUターンの拡大の舞台装置にもなるのではないのでしょうか。

提案書の下の方にスケボーやBMXのプレーが可能なストリートパイプについて記載しておりますが、宇佐美の中学生が1000以上の署名を集めて市長に提出されたことは記憶に新しいかと思います。未成年故に彼らに選挙権はありませんが、日本国籍を持った日本人であり、その民意が示された以上、検討自体は行わねばならないと思います。ただ、早期のハード整備が現実的でないのは私もよくわかります。一方で伊東市でも、まずは既存イベントに即席のスケボーコーナーを設け、三信跡地のあの広場でイベントを行うことで、ニーズの把握から始めることは難しくないはずですが、ノウハウがないものへの取り組み方もわからないかと思います。そこで前回会議でも資料をお配りしご紹介した沼津市のストリートパークの立役者でもあるこの渡会さんという方にお話を聞いてみてはいかがでしょうか。私から企画様をお願いして、生涯学習課様の方に渡会さんに関する連絡先も含めた資料をお渡ししましたが、市長からも生涯学習課様の方に話だけでも聞いてみるように一言おっしゃっていただけないでしょうか。今回お出しした提案書は私、O委員の他に、高校生であるT委員からもご賛同をいただいて提出するものであることを改めて申し上げます。

最後に簡単に3点別にお伺いしたいのですが、ここで一度区切らせていただきます。よろしく申し上げます。

【市長】

ありがとうございました。サードプレイスについては、新しい図書館がまさにそうになってほしいと願っております。名前は図書館ですが、勉強されている方だけでなく、高齢者も含めた居心地のいい居場所となることを目指しております。設計は、1階部分が駐車場で雨でもそのまま屋内に入れるようになっており、そのフロアにはカフェを入れます。2階以上が本を読むスペースと、天気良ければ屋外に遊具が置いてありますので、お子さんが遊べるようになっており、屋根があるテラスでは、本を読んだりお茶を飲んだりしていただくようになっております。図書については、2階のエントランスに新聞紙、週刊誌、旅行情報誌等が置いてあり、高齢者でも毎日いきたくするようにしたいと考えております。3階部分は、お子さんのスペース、4階は専門書となっております、段々と清閑な雰囲気になっていきます。1日小さいお子さんを連れて保護者がゆっくりできることをイメージしております。

伊東の高齢化比率は44%を超えており、その半数以上が75歳以上です。そういう中では若者を中心とした視点も重要ですが、高齢者対策も重要であります。行政としては、すべての世代を対象としていきます。私は、少子化問題に歯止めをかけるように、移住施策や子育て施策に力を入れていきました。8年前の市長就任時から、毎年のように新しい施策を展開しておりまして、4月からは小・中学校の給食費無償化を実施いたします。私たちが子育てをしているときと比べると、圧倒的に対策を講じております。少子化問題に歯止めをかけるため、〇委員を始めとした若者が、どんどん発信していただくことが重要であります。福島県白河市にも視察にいらしていただいたということで、まさに我々がやらなければならないことをやっていたと感謝しております。そういう中で、渡会さんにスケートボードの在り方や3on3のバスケットなど、どういう形が有効なのか、ポケットパークについての企画を出していく中で、可能なことを実施してまいります。現時点での案としましては、競輪場の広い駐車場を活用し、大きいレース以外は埋まらないものですから、有効活用したいと思っております。子どもたちで行くためには、交通手段の問題がありますので、そこをどう考えるのか、有権者ではないから考えないというわけではなく、重く受け止めております。今の御提案を含め、若い子どもたちの視点をどのように取り入れていくのか、まさに未来ビジョン会議はそれを伺いたくて開催しております。

【〇委員】

私もコミュニティカフェのハード整備というのは本当に難しいと思いますが、ワークショップとかコミュニケーションの場を作るところ、これはT委員の発表でもあった通り、私は未来ビジョン会議に出たからこういう意見を発表する場がありましたが、そういう場がなくて、自分の意見とかコミュニケーションをとる場所を知らないし、そういう場所がないということをずっと話しておりました。そのため、まずは自己実現の場として、探求活動とかコミュニケーションの場を、ソフトの面から作っていくことは大事である思った次第です。

また、ストリートパークの渡会さんについて、この方がハードを整備したわけではなくて、

この人もいろいろなイベントにて、即席で波状のパンプトラックというスケボーをプレーするためのアクティビティーを設置して、ストライダーというペダルのない足でこぐ自転車、ちっちゃい子ども向けの乗り物ですが、それで自由に使っていいよっていうところから始まり、少しずつ機運を盛り上げていったという、私もそこからではないかなって思います。いきなりハードを整備して、体験させることは現実的ではないと思うので、機運を盛り上げる努力をして、需要を確認し、3 on 3をやりたい人がいるのだなとなりましたら、ハードをどうするのかって3年後4年後ぐらいに考え、実施の可否を決めるのがいいのかなって思う次第です。

最後に公共交通について簡単に3点お伺いいたします。

一点目は、先日の伊豆新聞に中期計画である地域公共交通計画が新たに策定される旨が掲載され、そこにはバス運転手確保のために、バス運転手の最低賃金是正が盛り込まれるとのことでした。これは他の自治体には私が知る限りではない、かなり画期的で、本当に素晴らしいことだと思いますが、2年間私が申し上げてきたことを、仮に検討されているならば感激に堪えない次第です。そこで、低賃金は正のために具体的にどのような政策を現在検討されているのか。また、その市民負担がほぼない宿泊税の導入でその政策を賄おうとしているのか伺います。

二点目は、私の手元に昨年私が伊東市に転入した際に窓口でいただいた様々な書類があるのですけれども、この転入者の中には自家用車を持たない人もいるかと思うので、例えば伊東市でバスマップを作っていると思いますが、こういったものを窓口封筒の中に入れたりとか、弊社の時刻表とか東海バス様の時刻表を入れたりすることなど、転入者モビリティマネジメントっていうのですが、費用は正直ほとんどかからないかと思うので、御協力できる範囲で限られると思いますけれども、転入者モビリティマネジメントについて、伊東市様から呼びかけていただけないでしょうか。

三点目は、検討したいと以前おっしゃっていた学生定期への補助でございますが、現在の検討状況についてお伺い致します。

【市長】

はい、ありがとうございます。転入者向けのガイドや時刻表などを入れるということにつきましては、大事なことでありますので、すぐにでもできるかと思いました。本市では、宿泊税ではなく入湯税を値上げする予定でおりまして、先行して熱海市では宿泊税の導入をしておりますが、民泊に対する課題がありますので、研究している状況です。一方、入湯税につきましては、問題なく実施できるものと認識しております。通学に対する補助につきましては、教育長が検討しております。

【中村副市長】

公共交通計画に新たな最低賃金是正が盛り込まれていることにつきましては、全国的に検討する自治体が増えてきておりまして、具体的な内容については検討中ではありますが、例えば、さきほど〇委員の御意見にもありましたように、伊東市民で新たな運転手を育てるの

ではなく、市外から運転手として呼び込む方法があります。その案を検討する際、別の事業になりますが、本市では介護とか福祉とかの専門職をお持ちの方が移住する際に奨学金や転入費用を支援しております。その事業の対象者を拡充し、バス運転手も対象とするなど、いろいろな負担を軽減する方法も案としてあります。単に貸金解消として補助金を出すより、様々な負担を本市が支援できたらと思います。転入者のパンフレットは、まさにおっしゃる通りで、東海バスにつきましては時刻表を市民課に置いてありますので、転入者にお渡しすることについて検討してまいります。

【教育長】

子どもたちの移動は大きな課題となっております。今、スクールバスの利用率について、導入当初は320名の利用者でしたが、今年は280名を切りました。来年は250名を切る予定であり、少子化の影響もありますが、今後は部活動の地域移行もございます。子どもの数は少なくなっていくますが、定期券1枚で学校や部活動の会場に移動することになることが予想されるため、その際にどれくらいの予算が必要となるのか検討する段階に入っております。子どもたちの文化、スポーツについて、自由にいけるようになるシステムを構築することが必要になってくると思います。

【市長】

ありがとうございました。それでは、最後にO委員、お願いいたします。

【O委員】

伊豆伊東高校の教員として参りましたOです。まずは1年間未来ビジョン会議委員として参加し、本当にありがとうございましたということでお礼を言わせてください。私は未来ビジョン会議2年目の参加で去年からずっと楽しませていただいています。自分の中での未来ビジョン会議の立ち位置は、教職員の中でずっと学校に過ごしていると、異業種の方々との交流が限りなく少ないので、新たな視点を自分の中で見つける機会っていうのが学校の中にだけいると少ないと感じていたのですけれども、未来ビジョン会議を通じて、異業種の方々との交流を通じて知らない世界、たくさんの視点を得ることができました。

今年度につきましても、縁あってO委員と福島県に視察に行かしていただきまして、そちらでもたくさんの視点や、伊東市に生かせそうなことを考えることができました。大人になっても真面目に考えるっていうことが大事であると思いますので、そういう場を与えてくださった企画課を始め、伊東市長には本当に感謝しております、ありがとうございました。

私が言いたいことは、簡単に言うとA委員とO委員の方から伝えていただきました。私も伊豆伊東高校の教員の代表として来ているので、伊豆伊東高校の主に探求活動のことについて話をしたいなと考えていました。せっかく未来ビジョン会議で観光をテーマとしてディスカッションさせてもらったことと、エマノンの視察報告もさせてもらったので、そちらと絡めながら私なりの提案をさせていただければと思います。

先に謝罪しなければいけないのですが、今日に先立って資料を準備させてもらったのですが、私のミスで本日市長にお示しできません。申し訳ないのですが、後ほど、企画課の

職員を通じて市長にご覧いただければと思います。示したかった資料は探究活動がどのように行われているのか、学生のプレゼン資料を面白い事例込みで示したかったなと思いますので、見ていただければと思います。提案内容は、伊豆伊東高校のみらい学について今の実情をお話させてもらうのと、2年間みらい学をやらせていただき、枠組みはおおよそ完成してきているかなという感じでいます。これを次のフェーズに生かしていくことが、向こう2、3年で求められることではないかなと思います。次のフェーズっていうのは何かっていうと、これを地域に生かしていくっていうことであり、学校の職員ないし、市役所に紹介しようかなと思うのですけれども、探究活動をファシリテートしてくれる外部のエキスパートの方々と連携して、地域貢献につなげていきたいと思います。この連携がうまくいって、初めて評価を受けるのかなと思います。そういった形で先進事例が生まれて、先ほど市長がおっしゃっていた全国規模で見ても素晴らしい探究活動の実例が生まれるかなと思うので、この形は目指していきたいと思っています。探究活動の現状に戻りますが、学校ではプレゼンテーションみたいな形で発表の形が整えられるのですが、ここに限界を感じていて、学校でできるのが案を考えて提案するところで留まるっていうのを、最近つくづく感じております。内容に差があるので、いいものはどんどん波及させていきたいなと思うのですけれども、教員としては形にすることを第1優先としなければいけないときもありますので、ここが限界かなと感じています。

これを地域貢献まで生かすってなったときには、三つの必要なものがあると思っています。一つ目は先ほど紹介させてもらったファシリテーターです。こちらは、外部のエキスパートなどを通じて、我々が検討している探究活動の題材を見てもらうことが地域貢献につながってくるのではないかなと思っています。

二つ目がコネクションです。ファシリテーターは学校の方で探しておりますが、元々の関係値が浅いことによって交流が断念されることがありますので、そういったところでは伊東市役所さんに協力を仰いでつないでもらうことが必要かなと考えています。

三つ目がコストの部分です。予算の関係上、案で止まってしまうというのが実情として多く、例えば、今回面白いなと思ったのが、個食防止イベントを実施したいという探求班がありましたが、昼食会を開いてはどうだという案が上がりました。それを実施するっていうのを考えてみたときに、広報とか無料でできるものはありますが、昼食会をやるので、昼食を作りますが、材料費の問題が出てきます。学校では申し訳ないのですが、賄いきれないので、その辺の予算が捻出されればイベントとして大成するので、そういった予算をどこから出していかっていうのは今後考えていきたいなと思っています。

これら三つを解消していくために、私からはさらに深掘りしてお話していきたいなと思います。先日提案させてもらったイベントプランコンテストにつなげていきたいなと思っています。伊豆伊東高校がそれに参加するのはもちろんですが、これは未来ビジョン会議でお話が上っていたことですが、個人単位でイベントを実施している人が多いというのを会議の中で聞きました。そういった人たちも、伊東市役所さんの広報の力を借りたり、イベ

ントプランの枠組みをしっかりとるものと考えてもらったりすることで、より形のある実りのあるイベントが実施されるのではないかなと思っています。ビジネスプランコンテストを企画課さんの方でやられているとは思いますが、もう少し長期的な視点で伊東市を良くするためにという名目でやられていると思うので、もう少し短期的なイベントプランコンテストの実施してみたいかなと思っています。枠組みについては、〇委員の資料を借りまして、4ページに高校生募集という資料があります。こちらの方はですね、視察に行きって福島県の白河市が実際に市役所でやっている活性事業の資料になります。読み上げますと、白河市を盛り上げる課題解決する高校生募集と、最大10万円で地域を舞台にあなたのチャレンジを実現しようと、これまで高校生が行ってきた活動例という形で、いろいろ載っております。このようなことが探究活動で考えられているので、コストももちろんこういうところで負担があるとは思いますが、やり方によってはこうやってイベントが大成していくのかなと思っています。

以上のことを踏まえて、先ほどのファシリテーター、コネクション、コストの三つの課題を、学校と伊東市役所がしっかりと連携しながら、今後地域に生かしていく、探究活動につなげていきたいかなと思っていますので、この未来ビジョン会議を機に、より探求活動に伊東市と伊豆伊東高校が関係をより一層深めていけることを願って提案とさせていただきます。以上になります。

【市長】

最初におっしゃった教員をやっていると他の業種の人となかなか交流がないでしょうから、こうやって参加されている方と交流ができると、私もいつも思いますが、実態の社会っていうのはその人しか分かりません。その場ではわかっているけど、例えば市役所にいると分からないことがたくさんあります。そういう意味では、ご自身のスキルアップになったのではないかなと感じました。また、視察にも行っていただいたということで、待っていても情報が来ないですから、出ていくという姿勢が重要であり、市役所でも特別研修といって、自分で提案したものについて実際に行くという、行動を起こすということを企画部長が進めていますけれども、そういうことを私は好んでおります。また、そういう企画力を持った職員をこれからも育てていきたいなということも感じました。

そして、いろいろと現状の活動について、枠組みも完成していくので次のフェーズで地域に生かすというところで、3点お話がありました。いろいろなものを形に変えていく、お金はもちろんそうですが、私がよく夢と希望を形にすると、夢と希望は似ているようでちょっと違うなと思います。本当はこうしたいということを心に入れておかないで表現し、それを例えば市長という立場で言うと、それをどうすればできるかということですね。いろいろなスタッフの皆さんと相談をし、実現に結びつけていく、それが大事だとそういうことを心に置いて市長として務めていますけれども、まさにいろいろ御提案をいただけたものと思います。

【岸副市長】

〇委員ありがとうございました。昨年〇委員とこの探究学習についてのお話をさせてもらって、人が人を動かすっていうのは年が関係なく、実は私は今年度、通信大学を受講して探究学習についての学習をしてまいりまして、探究学習の素晴らしさが大人になっても必要だなと思っています。特に先生が今ぶつかっているところの、これは何かなって思って調べて、その事実が本当かなっていうのを更に確認して、自分の意見をまとめて発表して、他者とまたそれをぶつけ合って高め合っていくっていう螺旋で上がってく探究活動の中で、予算が必要になるっていうのが現実是这样だということふうに思いました。何か工夫をしていくことで、より高校生が伊豆伊東高校にいたことで、自己実現ができたなっていう経験から伊東を愛する人がさらに増えてくっていくようなことの実現になるかなと思いますので、今の〇委員から御提案いただいた三つの課題みたいなものについては、何らかの形で解決できるようなことを考えていきたいと思いました。本当に現実に基づいた、地に足がついた課題を、今年もぶつけてもらいましたっていう気持ちになりました。ありがとうございました。

【市長】

すごくまとまった意見を要約して発言していただき、ありがとうございます。この会議は、年度ごとに委員を変えていき、2年やっていたいいる方もおりますが、来年度以降も開催してまいりたいと思っております。ここでのディスカッションやグループワークをしていただく中で、こうやってお話し合いをすることは、市民の皆さんとの距離が縮まると感じており、私はこれを第1に掲げていて、私の言葉で言うと、主役は市民、そればかり申し上げております。タウンミーティングを地域ごとにやるなど、どんな方のオファーでも断らない、面談のお話が来たら、ネガティブな事を言うのがわかっているけども受けております。私が受けられないときは2人の副市長が受け、教育問題については教育長ということで、必ず聞いて、何かしら答えられること、あるいはその考えが間違っていれば、こちらのご意見を言うということを重視しております。

そういう中でこの未来ビジョン会議も8年目となり今年度はこれで終了しますが、やってよかったなって今日もつくづく思っております。いろいろ気が付かないこと、あるいはまたいただいた御意見に対して現状をお伝えして、可能性があるものについては、ぜひ取り組みたいということを思っておりますので、今後また何らかの形で意見交換ができる、そんな間柄になればと思っております。高校生の2人もこれからまだまだ勉強が続くと思いますが、ぜひ、伊東のことをいつも心に置いて、いずれは皆様がこちら側にいるような、そういう存在になってもらいたいなと思っております。それを付け加えさせていただきます。昨日もいろいろな意見が出ましたが、本日も提案が素晴らしかったなということを感じました。この会議室は、普段はあんまり使わないというか、政策会議といって、部長以上がここで政策について協議する場所であり、それから予算の査定など、市長が最後に査定しますが、そういう重要なときしか使わない部屋でして、おそらく皆様、今日初めて入ったのだと思いま

す。本当にそういう経験もしていただいてですね、またどんなことでも結構ですから、御意見をいただけるような、そういった状況になればと思っております。

それでは、事務局から何かあればお願いします。

(4) 閉会

事務局から事務連絡

【事務局】

今年度の未来ビジョン会議は本日で終了となります。ご参加いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

以 上